

戦争は別れ、平和は出会い

～青年委員会「平和学習ツアー」開催～

長野県長野市松代町、この町にある山々の地下一帯に延べ10キロにもわたる大きな地下壕があります。

ここは、太平洋戦争末期、本土決戦を考えた日本の司令部が、国の中枢機関を空襲から守り、戦争の指揮を執る為に作ったものです。

連合群馬青年委員会は、11月17日(日)「平和学習ツアー」を開催し、この「松代大本営」を訪れました。

「平和学習ツアー」は、現地で見たもの、聞いたもの、感じたものを参加者それぞれが各組織に持ち帰り、その中で平和についての学習を更に深めようとの思いで実施したものです。今回は、県内外の戦争史跡の中から、豊富な資料が発表され、現地で案内や説明を聞くことができるガイドが手配でき、日帰り可能な距離にある「松代大本営」の見学を実施しました。

松代大本営は、政府機関・日本放送協会・中央電話局が入る予定だった象山地下壕、大本営・御座所・宮内庁などが入る予定だった舞鶴山地下壕などを中心に工事が進められていましたが、終戦により殆どの施設が未完成のまま放置され続けていました。

それから約40年後、地元高校生の保存運動をきっかけに取り組みが進められ、今では戦争史跡として、年間13万人が訪れる程になっています。



現在は一部が気象庁の地震観測所となっている舞鶴山地下壕前にて



山田さん

「沖縄戦の戦争史跡を見た時、親が子を殺さざるを得ないような状況があったことを知って身が震えました。それ以来、多くの人に少しでも平和について考えて貰いたいと思い、ここでガイドをはじめました。

ガイドをしていると見学に訪れる様々な人と出会えます。戦争は別れ、平和は出会いを作る。そう思ってガイドをしています。」との山田さんの言葉が耳に残りました。



↑自由に見学ができるように整備された象山地下壕の入り口

削りかけのまま
↓放置された岩盤



ビデオによる事前学習を行った参加者39人は、松代大本営の保存を進める会の山田さんの説明を聞きながら、大本営跡の一つ象山地下壕に入りました。

ここは、10トンの爆弾にも耐えられるという硬い岩盤に削岩機で孔を開け、ダイナマイトで爆破しツルハシで削るという作業で、幅4m・高さ2.7m・総延長約6Kmのトンネルが作られていました。説明を聞きながら地下壕を歩くにつれて、参加者から「良くこんなもの作ったな。」との感想が聞こえてきました。

参加者は、過酷な作業状況の中で朝鮮人労働者などを中心に100人とも600人とも言われる犠牲者が出ていることに驚き、戦争では沖縄のように直接戦場となった場所以外でも、数多くの犠牲があったことを改めて実感し帰途につきました。



参加者の声から

- よくこんな物を作ったというのが正直な感想。
- ここを作るために亡くなった人も、まちがもなく戦争の犠牲者だと思う。
- 戦場にならなかった場所でも被害者は出る。実際に見て初めて分かったような気がする。

- ガイドや事前学習が無かったら、ただの横穴だと思ったと思う。
- 前回来た時と比べて、所々に手加えがあった、落盤防止等安全のためだろうが、観光地化して欲しくない。